

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 つき 組	5 月 20 日 (水)	南 勇貴

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～天気～ くもと雨についてしよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃から子どもたちは空を見上げて雲の形や天気の変化に興味を示しており、「今日は散歩にいける？」「さっきは雨振っていたよ」などと天気を気にする発言が多く見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・4月半の活動でどんな天気の日公園で探索したが振り返る。 ・「公園に行った日はどんな天気だったか覚えてる？」「公園に行って遊ぶことが出来る日はどんな天気？出来ない日はどんな天気？」「どんな天気があるのかな？」等と問いかけをして振り返りや発言がしやすいよう工夫する。 ・くもりと雨について考えていく。雲はどのように表れるのか？どのように出来るのかを子どもたちに聞く。 ・意見はホワイトボードにまとめる。 ・「雲はどこからくるのかな？」「雲は何でできているのかな？」「雲はどんな形がある？どんな色がある？」「雨はどこからくるのかな？」「雨は何でできているのかな？」と問いかけ、イメージしやすいように声をかける。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内で写真や図を見ながら話し合えるスペースを確保する。 ・室内で実験が安全に行えるスペースを確保する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気ポット ・透明のビニール袋 ・雲の写真集 ・雲・雨の発生理理の図 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・写真や図を掲示するためのマグネットなど <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲の写真集 (巻雲、巻層雲、巻積雲、乱層雲、高層雲、高積雲、積乱雲、積雲、層雲、層積雲、穴あき雲、レンズ雲、スーパーセル等) ・雲・雨・雪の発生理理の図
10:05～10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や図を使ってさまざまな雲の形を観察。 ・グループで意見を出し合う。「雲の形はどうなっているかな？一緒？違う？」「違うとしたら、どんな形がある？」「雲はどこからくるかな？」「何でできているのかな？」「雲と関係あるのかな？」「友達意見を聞いて同じところ、違うところがあるかな？」と問いかけ、発言を援助する。 ・話し合ったことをホワイトボードにまとめる。 	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気ポットとビニール袋を使った実験を予め検証しておく。 <p>【実験】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①電気ポットの中にお湯を沸かす。 ②お湯が沸いたら、電気ポットの蓋を開け、湯気を放出する。 ③湯気が上がっている上に透明のビニール袋を広げ、湯気を受け止める。 ④ビニール袋の口を閉じ、中の湯気を観察する。 ⑤時間が経ち、湯気が水の粒となったら、ビニール袋の口を開け水滴を落とす。
10:15～10:35	<ul style="list-style-type: none"> ・高さによって雲の形が異なること、雲が水蒸気からできていることを図や写真を見ながら伝える。 ・保育者は、子どもたちの意見を引き出したり、形状と重さについて気づけるような問いかけを工夫する。 ・電気ポットとビニール袋を使った実験をすることを伝える。 ・開始する前に電気ポットから出る湯気はとても熱いことを伝え、観察する際の約束を話し合い決める。 ・実験はどのようになるかをグループで予測を話し合う。 ・話し合ったことをホワイトボードにまとめる。 ・電気ポットから出る湯気はとても熱いことを伝え、観察する際の約束を話し合い決める。 ・電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生の仕組みを観察する。 	
10:35～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日、気づいたことや、感じたこと、思ったことは何かな？」と問いかけ、自分なりの気づきや感想を言葉にする機会をつくる。 ・雲・雨・雪の発生理理の図をみんなで再度見て、雲は水蒸気(湯気)が上に上がり、ある程度集まって、粒が大きくなり、空から落ちて雨になるということを確認する。 ・「空から降るものは雨だけかな？」と問いかける。 ・次回は、雨と雪についての実験を試みることを提案する。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・本活動では、雲の仕組みや特徴、雨が出来る仕組みについて、写真や図を使った観察を通して学んだ。 ・導入では、天気についての話を広げ、子どもたちは日頃読んでいる絵本で見たことのある雲の種類や名前について発言し、本物の雲の写真と比べる姿があった。 ・また、電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生についてより実感をもって学ぶことができた。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この雲、ふわふわしてるね！」「こっちは細長いね！」「雲って空のどこからくるの？」など、子ども同士で意見を交換する様子が見られた。 ・実験では、「袋が白くなった！」「湯気が集まると水になるんだね！」と驚きの声が上がった。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてこの雲は高いところにあるのかな？」と問いかけ、子どもたちが自分で考える機会を作った。 ・結論を急がず、考えるプロセスを大切にしました。 ・実験時は安全に配慮しながら、子どもたちが自ら試せるようにサポートした。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・実験が上手くいくかという結果に注目してしまいがちだが、本テーマである雲と雨に結び付けた観察ができるような問いを行ったことで、それぞれのチームでの実験結果の差がより天気への不思議さを広げるきっかけとなった。 ・雲の写真を見比べることで、子どもたちが違いに気づき、興味をもちやすかった。 ・結果を見てすぐに納得するのではなく、「どうしてだろう？」と考え続ける時間をもっと作ると良いと感じた。 ・子どもたちが雲だけではなく雨や水に興味を広げていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでなんでも？どうして？という疑問が生まれ、子ども達が自分で考える機会になり、探究活動が十分にできていたように感じる。今後子ども達の中で関心の高まっている天気について話したり絵本や図鑑を通して知ることが出来る環境を整えられ、興味関心を深められるだろう。今回のような活動を継続的に実施していくことで子ども達が自分自身で考えたり、自分たちで探す、調べる楽しさを知ることができるとよい。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5歳児 つき組	9月12日(金)	南 勇貴

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~野菜~ 野菜はどこにできるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
給食で出てくる野菜について、話す姿があり、野菜の図鑑で調べている姿がある。		
活動スケジュール		環境設定・準備物
時間	内容	
10:15~10:25	・みんなの知っている野菜を聞き出し、ホワイトボードに書き出す。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:25~10:35	・子どもたちがスイカは野菜か果物か疑問を持ち、グループごとに5分間話し合う。 ・グループごとに自由に野菜について図鑑や絵本で調べる。	【活動使用教材】 ・野菜カード ・野菜の絵本 ・野菜の図鑑 ・動画 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:35~10:45	・土の中で育つ野菜と土の上で育つ野菜があることを知る。 グループで調べた野菜が土の上か、土の下で育っているのか調べる。	【事前準備】 ・野菜カード ・子どもたちが興味がある野菜ができるまでの動画を調べておく。 ※協力していただける野菜農家の方がいる場合、直接話を伺ってもよい。
10:45~10:55	グループごとに発表をする。保育士はiPadで内容を確認、生えている野菜の写真を子どもに見せる	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子どもたちの知っている野菜を発言してもらい、途中でスイカは果物なのか野菜なのか疑問が出たので話し合ったり調べることにした。子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高めていく。</p> <p>・野菜がどうやってできるのか考える、野菜ができるまでの過程を知る。</p> <p>・土の中で育つ野菜と土の上で育つ野菜があることを知り、どこに育つ野菜であるのか探究を深めた。</p>	<p>【子どもの姿・声】 ・土の中にできる野菜と土の上でできる野菜を自分なりに分類しようとし、「にんじんは土の中だよ」とこれまでの経験や記憶と照らし合わせて考えていた。 ・友だちと話し合いながら、「これ、間違えてた！」「やっぱりそうか！」と答え合わせのように確かめ合い、学び合っていた。</p> <p>【保育者との関わり】 ・子どもたちの分類の様子を見ながら、「どうしてそう思ったの？」「他に同じ場所にできる野菜はあるかな？」と問いかけ、思考を深めるサポートを行った。 ・図鑑や写真を用いて実際の生育の様子と一緒に確認し、正解を教えるのではなく、気づきに導くような関わりを意識した。 ・「それは掘ってとる野菜だね」「これは枝からとるね」といった言葉を補いながら、表現の幅が広がるよう促した。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちはこれまでの生活経験をもとに、野菜ができる場所について自分なりの考えをもっていることに気付いた。</p> <p>・「土の中」や「土の上」という表面的な区分だけでなく、「なぜその場所で育つのか」「見えないところにあるのはなぜか」といった問いに発展する姿も見られ、探究心の深まりを感じた。</p> <p>・同じ野菜でも形や育ち方に違いがあることに驚いたり、友だちと意見が分かれる中で学び合おうとする姿が多く、活動を通じて思考の柔軟さと協同性が育まれていると実感した。</p> <p>・保育者が「どこでできるのか」を教えるのではなく、子ども自身が考え、比べ、話し合うプロセスを大切にすることで、より主体的な学びにつながることを再確認した。</p>	<p>子ども達が自分で考え自由に発言することを大切にしている姿勢が伺えた。合っているのか間違っているのかなど、正解を求めるのではなく調べたり話し合っていく中で予想し考えることにおもきをおいており、非認知能力を育てる活動だと感じた。継続して実施することで力になっていくものであり、子ども達の探求心も向上するので引き続き定期的実施して欲しい。</p>